

今村復興大臣福島訪問ぶら下がり記者会見録  
(平成28年9月21日(水) 1650～1656 於) 福島県いわき市)

1. 発言要旨

本日は、新地町、相馬市、いわき市の視察を行い、そしてこのNPOにもまいったところでもあります。

新地町では、周辺市街地の復興整備事業、いわゆる区画整理事業の進捗確認ということで、常磐線の駅前等々を見てまいりました。その際、宿泊施設等々を整備していきたいという話も伺ったところでもあります。

相馬市では、できあがったばかりの漁業施設に行きまして、何としてもこの風評被害を払拭していきたいということ。そのためにまず直売所を作って、そしてそこにまた公園等を整備しながら、まず隗より始めよということで、地元からの発信をする、それからまた地元の魚介物を地産地消からしっかりやっけていこうではないかと、そのための支援をお願いしたいと。特にこの立ち上がりよきの支援ということをお願いしたいということがありました。そして、その際、ちょうどマスコミ関係のみなさんが「『ふくしまプライド。』漁業復興メディアツアー」ということもやっけておられまして、私もそこに出て祝辞を述べたところでございます。そこで是非マスコミのみなさんにも、ひとつ、よいしょしてくれということをお願いしました。

いわき市では、一番の拠点の土地でもあります。ここで、その牽引役を是非お願いしたいと。いわき市が抱えている、いろいろな除染の問題等々、側溝の堆積物についても、既にこれについては柔軟に対応するという方向を出しつつありますので、それに沿ってやっけていきたいと思っけております。そして、最後にまいりましたこの「みんぷく」では、24,000人のいろいろなご事情を抱えられておられる方々をしっかりとサポートしてやっけておられるということで、私も感動いたしました。また、このノウハウを例えば、熊本等でも同じようなことがありますので、そういったところに対してはみなさんのノウハウを伝授していただければというふうに思っけた次第であります。

最後になりますが、今日も視察してまいりましたが、まだまだ課題もありますし、新しい未来も少し見えているようなところもあるということで、その牽引役を務めていただきながら、しっかり遅れることがないように頑張っけていかなければならないと。そのためには、我々も現場第一主義でしっかりとサポートしていくという、その必要性を改めて感じたところでもあります。

以上です。

## 2. 質疑応答

(問) いわき市の方で、先ほど市長の方から要望書が出されたと思うのですが、いわき市の方で今お話があったとおり、双葉郡の方、24,000人の方が避難をされております。5年経ちまして、状況がかわってきたので、市長もおっしゃっていたとおり、住民票の問題などが出てきておりますが、復興庁としての考えを教えてください。また、もう一点、今大臣もおっしゃった堆積物の問題、これは市長も言っていたとおり、市が独自で予算を付けている状況となっております。これも国として今後どういう判断をしていくのかということも教えてください。お願いします。

(答) 状況は刻々と変わってきますから、まさに24,000人の方は最初と今とでは変わってきます。そうしたことについては的確に状況の変化に応じて、できるだけ弾力的に対応していきたいと思っておりますし、その一環として、柔軟な対応ということもあります。この堆積物の問題については、まず、市でやっていただいて、その辺のサポートもしっかり国でやっていこうという方向で今進めています。

(問) ちょっと所管外になるかもしれませんが、東京オリンピックの時の野球開催、福島市、郡山市、いわき市と名乗りを上げておりますが、いわき市は今年、15歳以下のワールドカップを開催したという実績もあるのですが、それについて復興大臣としては、何かお考えはございませんでしょうか。

(答) 私は、福島のグラウンドで一つ、とにかく是非何か種目を持って来ようということでありまして、あと福島の中でどこにするのかというのは、私の方からはまだ言える段階ではないと思っております。

(問) それについて、市長からは特に何もなかったですか。

(答) そこまではなかったです。要望書にはありますが、何をここに持ってきてくれといったそこまで突っ込んだ話はありませんでした。

(問) 今の「みんぷく」さんとの懇談の中で、みんぷくさんとしては、避難者、被災者の支援というのは、むしろこれから力を入れていかないといけないというお話があったかと思っておりますけれども、息の長い取り組みになると思っておりますが、復興庁として、具体的にどんな支援策とか、メニューをお考えになっておりますか。

(答) これは、今も言いましたが、状況は刻々と変わってきますから、それに応じた弾力的な対応と、しかもできるだけ現場に寄り添ってやっていくという基本線をきちんとつなげていきたいと思っております。

(問) そうすると、地域事情に合わせて、メリハリをつけた形になっていくということですか、一律同じルールというよりは、どうですか。

(答) そういうことになりますね。地域事情もありますし、個々のみなさんが抱える状況も色々ありますから。今まではとにかく避難で、とにかくみんな我慢しようということやってきたと思いますが、これからは次にどうやっていこうかという、それぞれのベクトルが変わってくると思いますので、そういう段階にあったやり方をしていくということになると思います。

また、蛇足ですが、今日は「みんぷく」とは何の略だろうということ、（「みんなが復興の主役！」の略だということが）聞いてわかったのですが、私は案外に「みんなが、ふくよかになるように」ということで、そういう「みんぷく」でもいいのではないかと思いました。

(以 上)